

小泉の里を訪ねてレポ

太田 和則

2024年2月26(月)

集合場所：JR大和小泉 AM10:00

意外と知られてない小泉城(大和郡山三城)。

今回は22名の方が小泉の里に興味を抱いていただき参加されました。雨のちらつく中、JR大和小泉西口から出発「片桐城址」の石碑を過ぎ、すぐ先に「小泉城跡」の石碑がありました。これが主郭に当たる所です。ここで小泉城・片桐城の歴史に触れました。古くからこの地を豪族の小泉氏が支配してきました。当時は、「小泉陣屋」と呼ばれ、城と呼ばれる程のスケールもない簡単な館を設け、藩の業務を行なったようです。

戦国の時代もなんとか潜り抜け、生き残った小泉氏、その後筒井氏の家臣となっていたが、国替えとなり、筒井氏と一緒に伊賀上野に移り、1608年「伊賀上野藩筒井騒動」で領地没収となり改易となる。その時小泉一族の歴史は終わりました。代わりに小泉城には大和に着任した豊臣秀長の家臣羽田長門が入封、郡山の支城として小泉氏の館を拡張したといわれています。大阪の陣を境にして片桐貞隆(片桐且元の弟)が小泉藩初代藩主となり、2代目貞昌へと繋ぐわけですが、この大和の小藩が一度の国替もなく明治維新後の廃藩置県(明治4年)まで存続したのは驚きです。2代目藩主貞昌は別名「片桐石州」と呼ばれる茶人で、4代将軍家綱の将軍家指南役になり、徳川家との関係をより深めていくこととなります。平和になった世を茶道という武器で泳ぎ切ったといえます。そして令和の現在も「石州流」茶道の本部「高林庵」として存在し、子孫の方がこの中で生活されています。



高林庵



小泉神社(小泉城の城門)を訪れました。(本殿は重要文化財) 小泉神社の門は小泉城の城門を移設したものです。(現存する唯一の遺構)



次に弘法大師が掘ったとされる「小白水」(湧き水が枯れる事がない)を訪れました。小泉地名の由来と

なりました。(小と白+水=小泉)

その後、笹尾古墳の石室の中に入れる貴重な体験を楽しみました。この頃には天気も回復し陽がさしてきて近くの公園でおいしいお弁当をいただきました。



午後、小泉大塚古墳、六道山古墳を訪れ、大和三名園の一つで、2代目藩主片桐貞昌が父貞隆の



菩提寺として建立した「慈光院」を訪ね、茶室として作られた茶席で「侘び寂び」の空間へ。心静かに庭園を眺め、片桐家の家紋



の“らくがん”を味わい、石州流の茶を頂きました。甘さ残る後に、苦めの茶は格別。できれば落雁も少し大きく！お茶も多めに！



最後帰り道の庚申堂を訪れJR小泉駅で散会。寒い中のご参加大変お疲れさまでした。私にとっても貴重な例会でした。これだけの遺産がありながら城として遺構があまりにも少なく、殆どが住宅街になっています。理由は藩主の財政状況が関係していたようです。藩主には多くの家臣があり廃藩後の生活に対応したのでしょうか。杉本さん捕捉説明ありがとうございました。